

# 新河岸川及び白子川河川整備計画(変更原案)

## 説明資料

平成29年10月27日(金)

## 1. 流域及び河川の概要

- ・新河岸川及び白子川の概要
- ・土地利用状況の変遷
- ・歴史と由来

## 2. 河川整備の現状と課題

時点修正

- ・洪水による災害発生状況
- ・河川の整備状況
- ・適正な利用及び流水の正常な機能の維持
- ・河川環境の整備と保全

## 3. 河川整備計画の目標及び整備の実施に関する事項

- ・洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減
- ・河川環境の整備と保全

変更

時点修正

## 4. パブリックコメントの結果

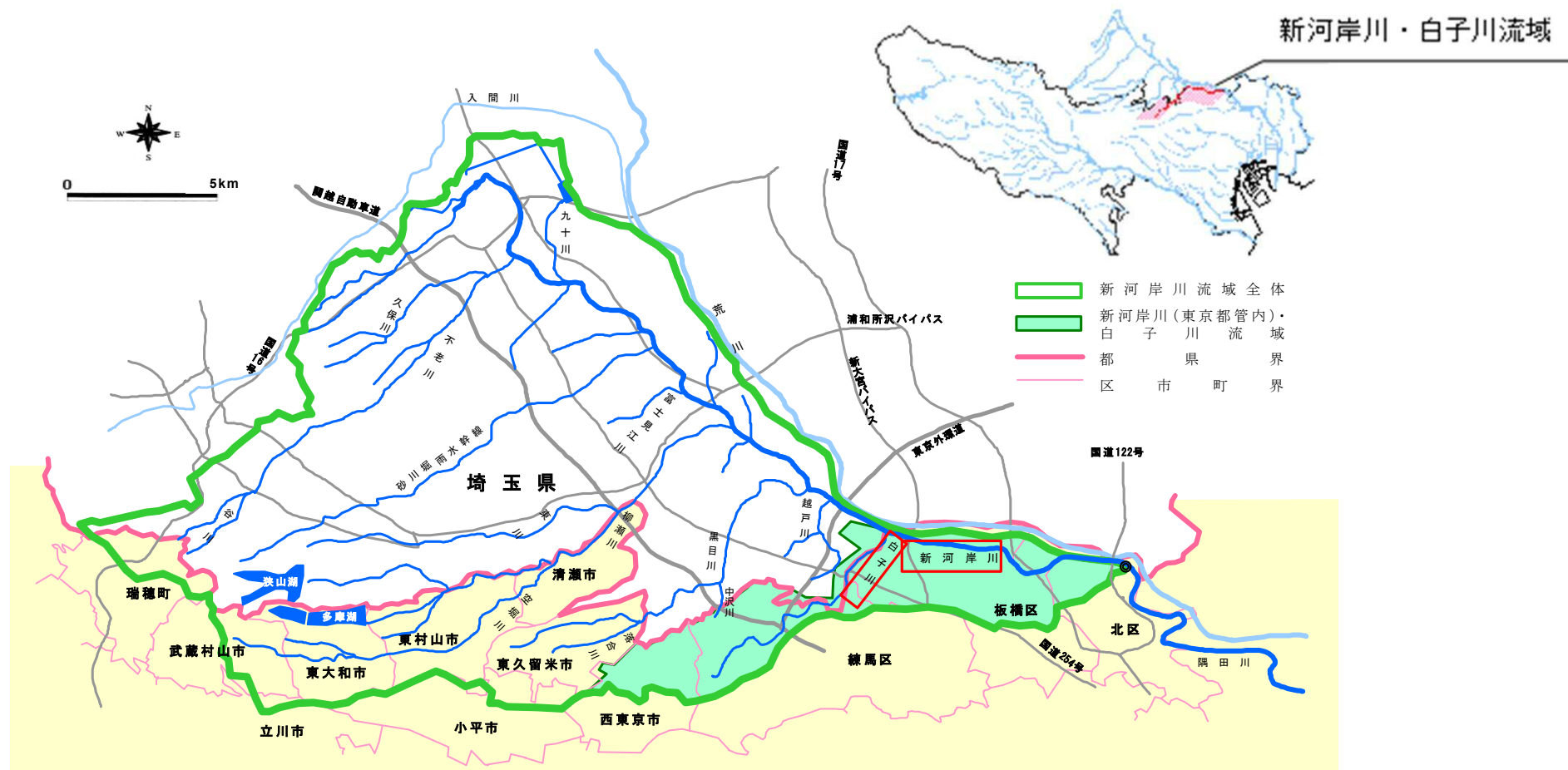
# 1. 流域及び河川の概要 —新河岸川及び白子川の概要—

## 【新河岸川】

- 流域面積 約411km<sup>2</sup> (都：約109km<sup>2</sup>)
- 幹川流路延長 約34.6km(都：約9.3km)
- 水源 狭山丘陵
- 流域内人口：約38万人 (平成27年、都のみ)
- 流域市：北区、板橋区、練馬区の3区

## 【白子川】

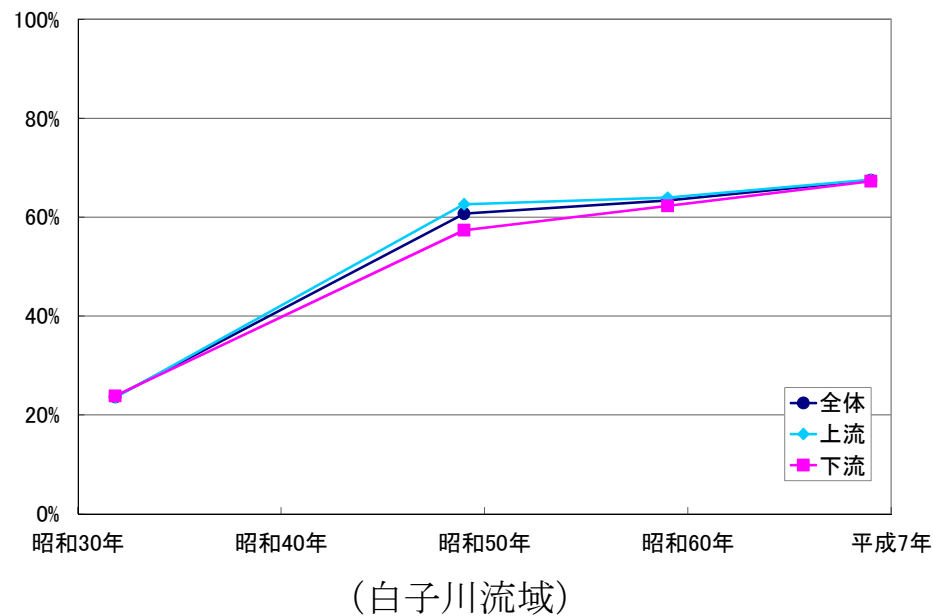
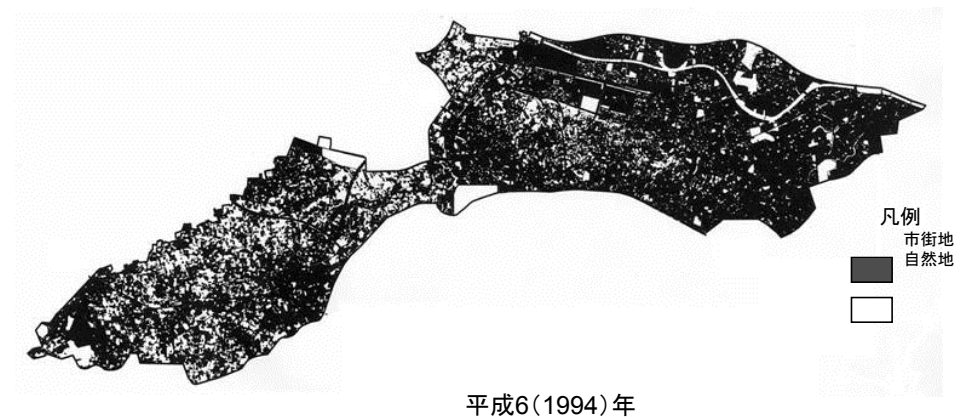
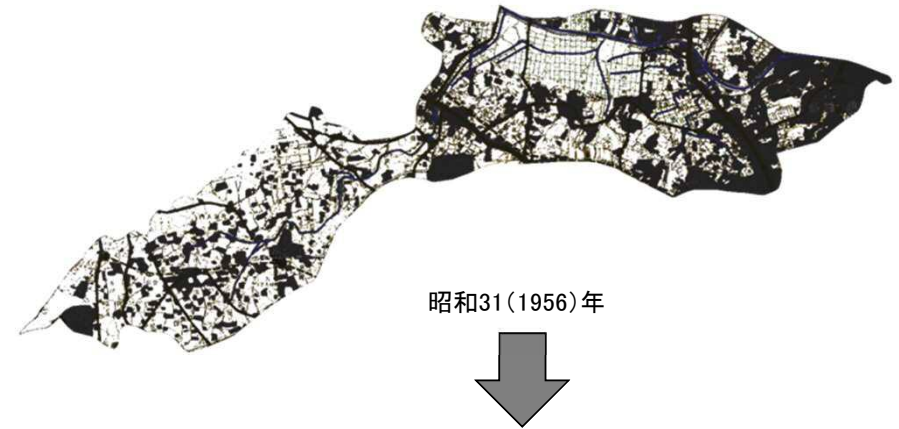
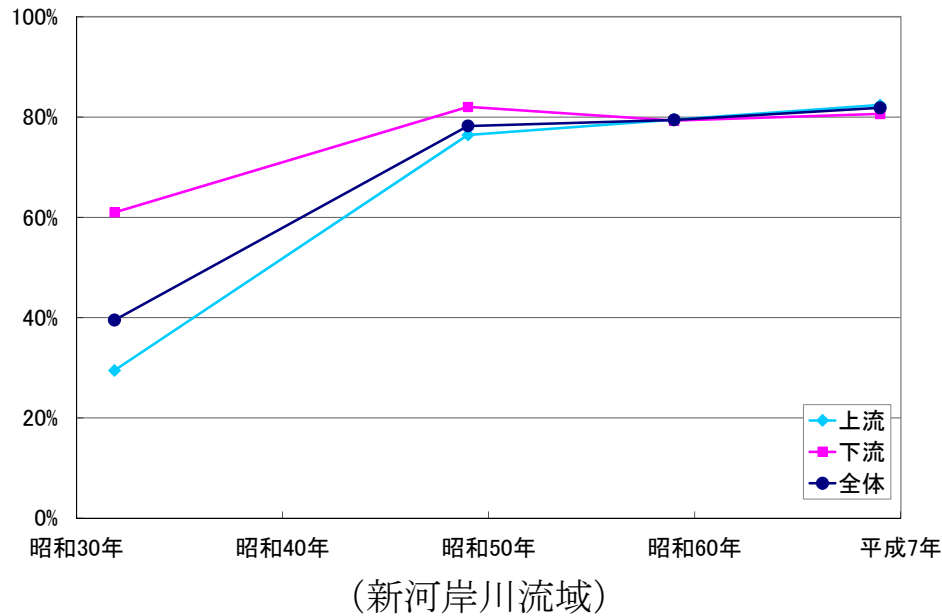
- 流域面積 約25km<sup>2</sup> (都：約22.2km<sup>2</sup>)
- 幹川流路延長 約10.0km(都：約8.5km)
- 水源 西東京市
- 流域内人口：約28万人 (平成27年、都のみ)
- 流域市：板橋区、練馬区、西東京市の2区、1市





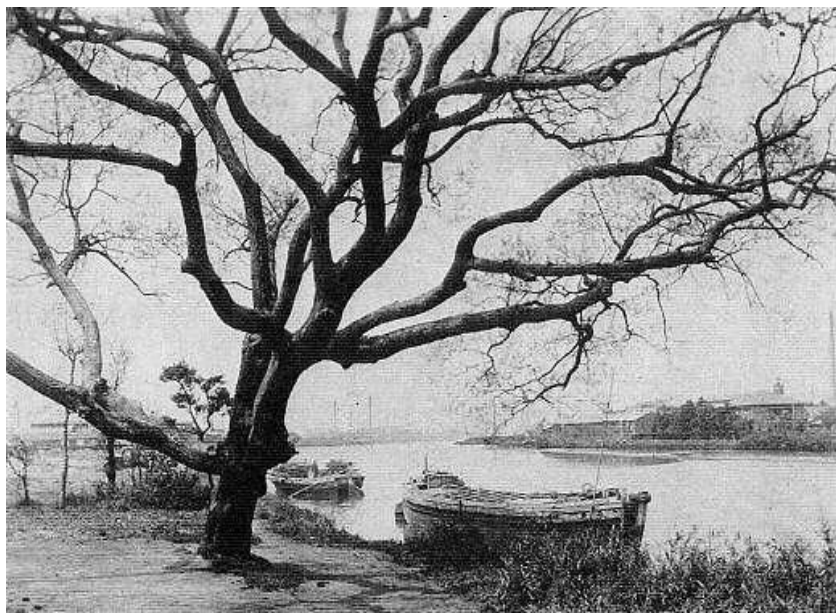
# 1. 流域及び河川の概要 —土地利用状況の変遷—

新河岸川及び白子川流域は、昭和40年代頃から急速に市街化が進行したが、近年は微増傾向となっている。平成6年の市街地率は、新河岸川で約82%、白子川で67%である。

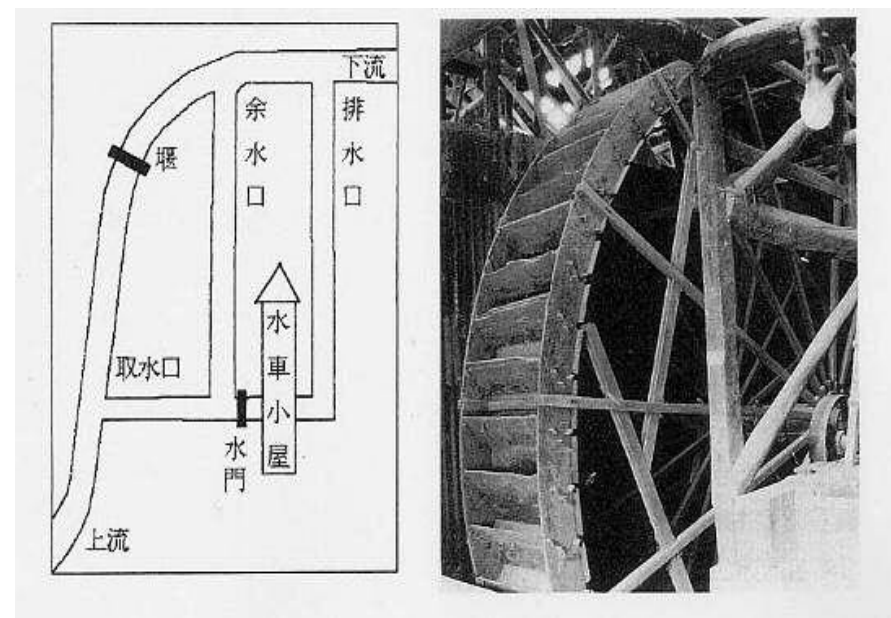


# 1. 流域及び河川の概要 — 歴史と由来 —

- 新河岸川は、江戸時代前期には、武蔵野台地を刻む河川を集めて、荒川とほぼ並行して流れ、埼玉県和光市大字新倉で荒川と合流し、現在の隅田川を経て江戸浅草に至っていた。新河岸川の舟運は、寛永10(1633)年の川越大火によって炎上した川越小仙波の東照宮の再建のための用材を、新河岸川の舟運で運搬したのが始まりといわれている。
- 白子川については、昔は入り組んだ川であり、豊島郡(東京都)と新座郡(埼玉県)との境であった。川沿いでは、享保年間(1716~)には農家の副業として水車経営が始まった。幕末から明治にかけて水車経営は企業として発展し、従来の精米・精麦・製粉の他に油・綿・製紙・伸銅などの商品が加わった。



新河岸川の旧小豆沢河岸(旧荒川水路)と赤芽柳  
(昭和27~28年頃)



明治末期~大正にかけて活躍した白子川の水車  
(練馬区内の山八水車)

## 1. 流域及び河川の概要

- ・新河岸川及び白子川の概要
- ・土地利用状況の変遷
- ・歴史と由来

## 2. 河川整備の現状と課題

時点修正

- ・洪水による災害発生状況
- ・河川の整備状況
- ・適正な利用及び流水の正常な機能の維持
- ・河川環境の整備と保全

## 3. 河川整備計画の目標及び整備の実施に関する事項

- ・洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減
- ・河川環境の整備と保全

変更

時点修正

## 4. パブリックコメントの結果

## 2. 河川整備の現状と課題

## －洪水による災害発生状況－

### ＜新河岸川流域の主な水害＞

年月日	原因	浸水面積 (ha)	被害棟数			雨量 観測所	時間最大 雨量 (mm/hr)	日雨量又 は総雨量 (mm)
			床下	床上	合計			
昭和49年7月21日	集中豪雨	2.4	126	18	144	練馬	31.0	91.0
昭和52年8月18日	集中豪雨	9.6	238	50	288	赤塚	31.5	133.5
昭和53年4月6日	集中豪雨	4.7	69	42	111	赤塚	38.0	66.0
昭和56年10月22日	台風24号	15.2	168	17	185	赤塚	30.0	168.0
昭和57年9月12日	台風18号	39.3	102	182	284	赤塚	52.0	162.0
昭和58年6月10日	集中豪雨	4.8	63	17	80	赤塚	34.0	36.0
平成3年9月19日	台風18号	0.93	59	30	89	高島平	33.0	151.0
平成5年6月21日	集中豪雨	2.79	46	48	94	志茂橋	72.0	74.0
平成16年10月9日	台風22号	1.03	22	23	45	赤塚	36.0	196.0
平成17年9月4日	集中豪雨	0.82	37	45	82	赤塚	91.0	191.0
平成21年8月9日～ 10日	台風9号	0.33	46	16	62	志茂橋	100.0	108.0
平成23年8月26日	集中豪雨	0.31	21	17	38	志茂橋	68.0	78.0



新河岸川西台橋付近の増水  
(平成3年9月19日台風18号)



白子川成増橋付近の増水  
(昭和57年9月12日台風18号)

### ＜白子川流域の主な水害＞

年月日	原因	浸水面積 (ha)	被害棟数			雨量 観測所	時間最大 雨量 (mm/hr)	日雨量又 は総雨量 (mm)
			床下	床上	合計			
昭和49年7月11日	梅雨前線	9.0	149	8	157	練馬	22.0	102.0
昭和49年7月20日	集中豪雨	2.9	42	3	45	練馬	31.0	91.0
昭和49年8月1日	集中豪雨	0.5	140	7	147	練馬	2.0	4.5
昭和49年8月27日	低気圧	4.0	135	0	135	小平	24.0	28.0
昭和49年9月1日	台風16号	1.5	48	0	48	練馬	31.0	150.5
昭和49年9月9日	台風18号	7.0	209	13	222	練馬	22.5	71.5
昭和51年9月9日	台風17号	37.2	476	55	531	田無	65.0	220.0
昭和52年8月18日	集中豪雨	8.5	80	0	80	赤塚	31.5	133.5
昭和52年9月19日	台風11号	1.0	42	0	42	石神井	17.0	92.0
昭和56年7月22日	集中豪雨	1.2	67	8	75	赤塚	62.0	66.0
昭和56年10月22日	台風24号	0.5	52	0	52	赤塚	30.0	171.0
昭和57年9月12日	台風18号	55.2	380	241	621	赤塚	52.0	162.0
昭和63年8月11日	集中豪雨	2.95	226	14	240	田無	67.0	140.0
平成元年8月1日	集中豪雨	0.60	44	3	47	田無	38.0	155.0
平成3年8月1日	集中豪雨	1.42	13	19	32	越後山橋	51.0	52.0
平成3年9月19日	台風18号	4.63	199	4	203	田無	33.0	170.0
平成7年8月2日	集中豪雨	1.68	55	46	101	越後山橋	44.0	44.0
平成11年8月14日	熱帯低気 圧	0.01	21	9	30	越後山橋	36.0	169.0
平成13年7月18日	集中豪雨	0.52	12	26	38	練馬	79.0	85.0
平成17年9月4日	集中豪雨	0.69	32	45	77	越後山橋	80.0	224.0
平成22年7月5日	集中豪雨	0.67	8	44	52	越後山橋	75.0	129.0

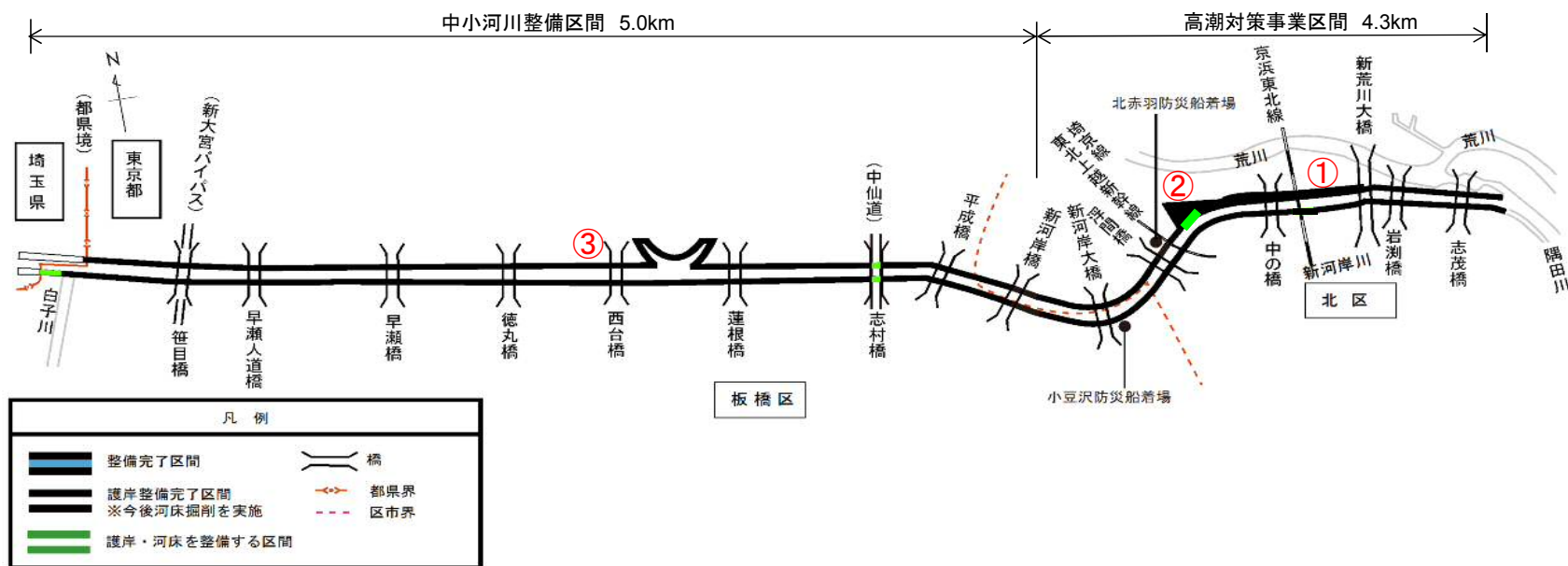


## 2. 河川整備の現状と課題 —河川の整備状況—

### 新河岸川

#### 【河道の整備状況】

新河岸川の護岸整備は、昭和63年度までに、橋梁の架け替えを伴う箇所を除いて、ほぼ概成しており、現在、護岸整備率で9割強となっている。

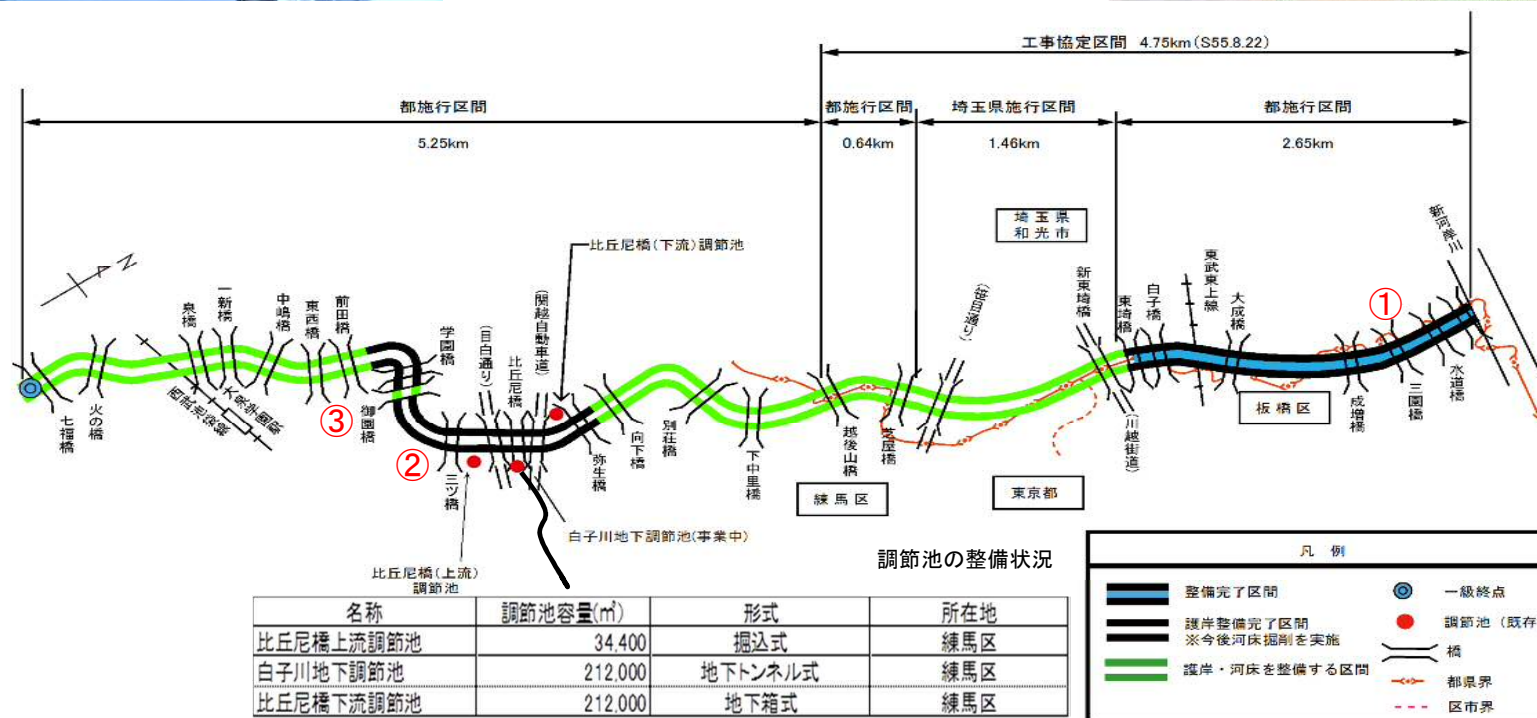


# 2. 河川整備の現状と課題 —河川の整備状況—

## 白子川

### 【河道の整備状況】

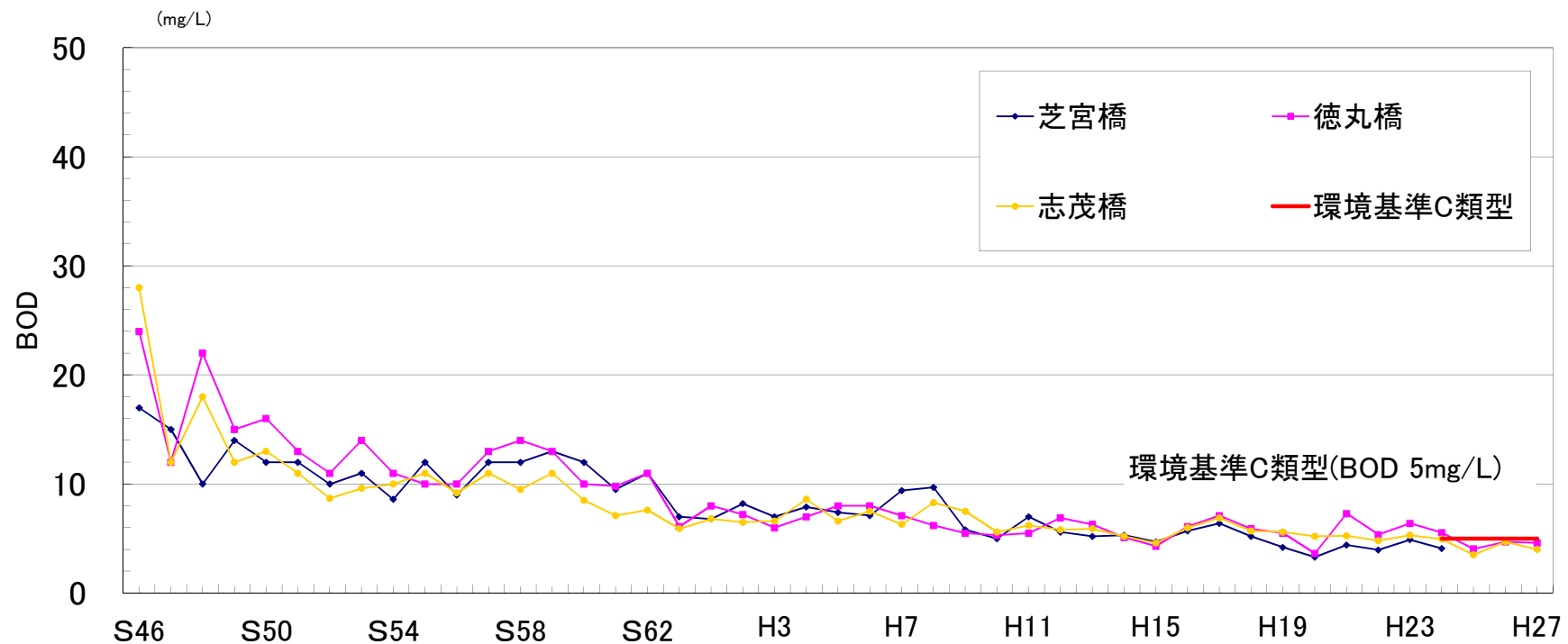
白子川の護岸整備は、新河岸川合流点から東埼橋、弥生橋から前田橋間が完成しており、護岸整備率は、約5割となっている。



## 2. 河川整備の現状と課題 —河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持—

### 【新河岸川】

- ・ 水利権:工業用水 1地点 最大0.012m<sup>3</sup>/s
- ・ 漁業権:設定なし
- ・ 水 質:工場排水や生活排水の流入により、水質悪化していたが、近年は浄化用水の導水等により水質改善し、平成28年度より、環境基準(C類型)を達成している。

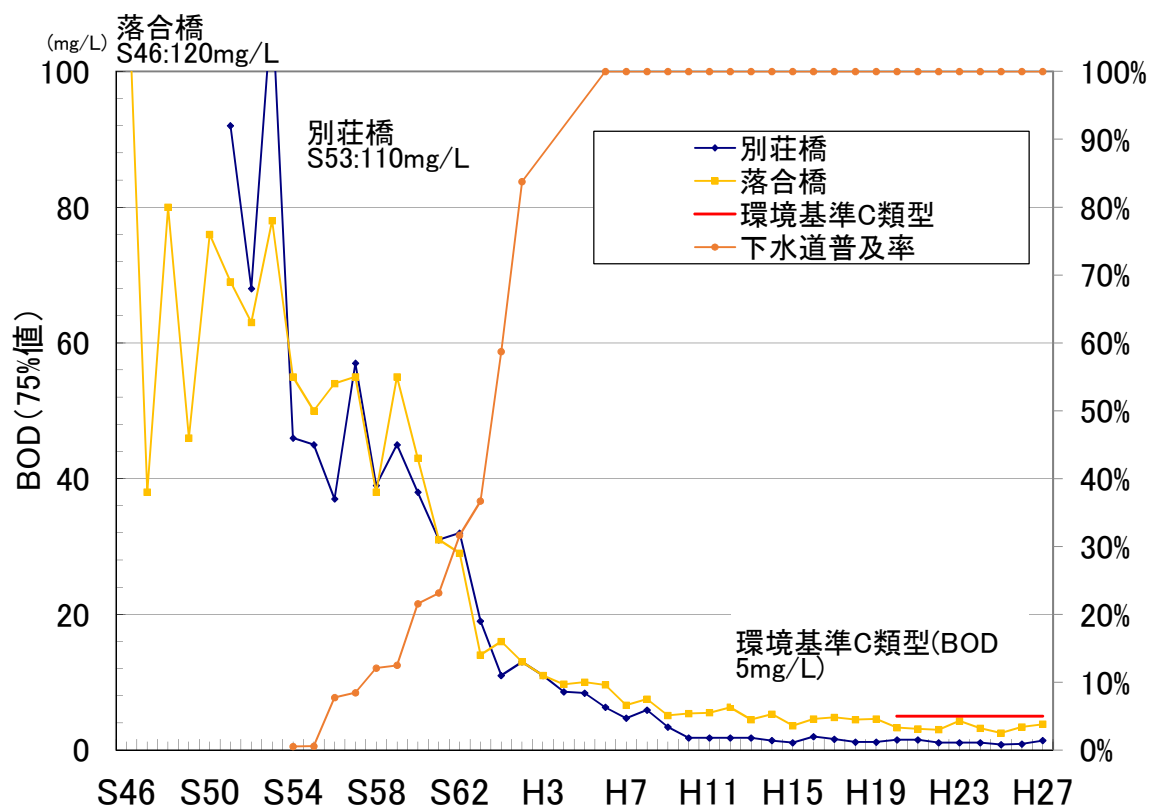


新河岸川の水質(BOD75%値)の推移

## 2. 河川整備の現状と課題 —河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持—

### 【白子川】

- ・水利権：設定なし
- ・漁業権：設定なし
- ・水質：工場排水や生活排水の流入により、水質悪化していたが、近年は下水道普及により水質改善し、平成28年度より、環境基準（C類型）を達成している。



白子川の水質 (BOD75%値) の推移



新河岸川・白子川流域の湧水

出典：「東京の湧水（平成25年度湧水調査報告書）」  
東京都環境局自然環境部、平成26年3月

## 2. 河川整備の現状と課題

### －河川環境の整備と保全にする事項－

新河岸川及び白子川では、市街化に併せて河川整備が進められた結果、人工的で一様なコンクリート護岸が連続することとなり、植物が生育しにくく、街の景観特性との調和も難しいものになってしまった。よって、護岸や管理用通路の緑化、水辺に近づけるような親水施設が必要と考えられる。

#### 新河岸川

現在は、「板橋区立舟渡水辺公園」等の親水施設、防災船着場（浮間橋左岸）等が整備されている。今後の課題としては、管理用通路の整備や護岸の親水化、沿川の緑化など、河川環境の向上を図っていく必要がある。



新河岸川の旧河道のワンドに整備された舟渡水辺公園



防災船着場（浮間橋左岸）

#### 白子川

大泉井頭公園の親水施設や寺前橋～東埼橋間の遊歩道等が整備されている。また、比丘尼橋上流調節池の「練馬区立びくに公園(多目的広場運動場)」等では調節池の多目的利用がなされている。

今後の課題としては、管理用通路の整備及び護岸の親水化や緑化、沿川の公園・緑地や湧水などの保全といった、親水整備について配慮する必要がある。



親水整備された大泉井頭公園



練馬区比丘尼公園 (多目的広場運動場)

## 2. 河川整備の現状と課題

### —河川環境の整備と保全にする事項—

#### 新河岸川

#### 新河岸川における主な生物確認状況

分類	新河岸川
魚類	コイ、スズキ、ボラ、マハゼ、 <b>アシシロハゼ</b> 、 <b>アベハゼ</b> 、 <b>ヌマチチブ</b> 、 <b>メダカ類</b> 、 <b>カダヤシ</b> 、 <b>タイリクバラタナゴ</b> 等
底生動物類	エラミミズ、シマイシビル、ミズムシ、サホコカゲロウ、 <b>テナガエビ</b> 、 <b>モクズガニ</b> 、 <b>ハグロトンボ</b> 、 <b>アメリカザリガニ</b> 等
植物	セリ、ヨシ、ヌルデ、アカメガシワ、ムクノキ、エノキ、ヨモギ、エノコログサ、テッポウユリ、ニラ、 <b>カワヂシャ</b> 、 <b>クサネム</b> 、 <b>オオカワヂシャ</b> 、 <b>オオキンケイギク</b> 等
鳥類	カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、ユリカモメ、セグロカモメ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、 <b>カイツブリ</b> 、 <b>ダイサギ</b> 、 <b>オオバン</b> 、 <b>イソシギ</b> 等
両生類・爬虫類・哺乳類	コウモリ目の一種、タヌキ、 <b>ニホンヤモリ</b> 、 <b>ニホンカナヘビ</b> 、 <b>アズマモグラ</b> 、 <b>ハタネズミ</b> 、 <b>ミシシッピアカミミガメ</b> 等
陸上昆虫類	ナガコガネグモ、アジアイトトンボ、シバズ、ハマベハサミムシ、オオヨコバイ、モンキチョウ、ナミハナアブ、ヒゲナガヤチバエ、マメコガネ、 <b>ヨコフカニグモ</b> 、 <b>クマズムシ</b> 、 <b>ショウリョウバッタモドキ</b> 、 <b>キボシトックリバチ</b> 等

注1) **青字**は「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版」掲載種もしくは環境省第4次レッドリスト掲載種、**赤字**は特定外来生物または要注意外来生物

## 2. 河川整備の現状と課題

### —河川整備状況と河川利用について—

#### 白子川

##### 白子川における主な生物確認状況

分類	白子川
魚類	コイ、モツゴ、ヨシノボリ類、ボラ、スズキ、マハゼ、アユ、 <b>ニホンウナギ</b> 、 <b>ヌマチチブ</b> 、 <b>ホトケドジョウ</b> 、 <b>カダヤシ</b> 、 <b>タイリクバラタナゴ</b> 等
底生動物類	イトミミズ、シマイシビル、ミズムシ、サホコカゲロウ、シオカラトンボ、 <b>コムズムシ</b> 、 <b>モノアラガイ</b> 、 <b>ミズカマキリ</b> 、 <b>テナガエビ</b> 、 <b>スジエビ</b> 、 <b>アメリカザリガニ</b> 等
植物	ガマ、イボクサ、ギシギシ、スズメノカタビラ、オヒシバ、 <b>エビモ</b> 、 <b>カワヂシャ</b> 、 <b>ミクリ</b> 、 <b>ヘラオモダカ</b> 、 <b>ミズヒマワリ</b> 、 <b>オオフサモ</b> 等
鳥類	—
両生類・爬虫類・哺乳類	
陸上昆虫類	

注1) **青字**は「東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版」掲載種もしくは環境省第4次レッドリスト掲載種、**赤字**は特定外来生物または要注意外来生物



## 1. 流域及び河川の概要

- ・新河岸川及び白子川の概要
- ・土地利用状況の変遷
- ・歴史と由来

## 2. 河川整備の現状と課題

時点修正

- ・洪水による災害発生状況
- ・河川の整備状況
- ・適正な利用及び流水の正常な機能の維持
- ・河川環境の整備と保全

## 3. 河川整備計画の目標及び整備の実施に関する事項

- ・洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減
- ・河川環境の整備と保全

変更

時点修正

## 4. パブリックコメントの結果

# 3. 河川整備の実施

— 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減 —

## 新河岸川

### 目標

(洪水対策)

・新河岸川では、河川施設および流域対策により、昭和57年9月実績豪雨(245.7mm/2日)規模により生じる洪水に対処する。

(高潮対策)

・伊勢湾台風規模の台風が東京湾及び主要河川に対して最大の被害をもたらすコースを進んだ時に発生する高潮(A.P.+5.1m)に対応する。

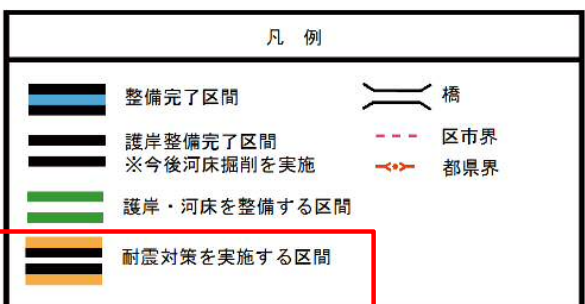
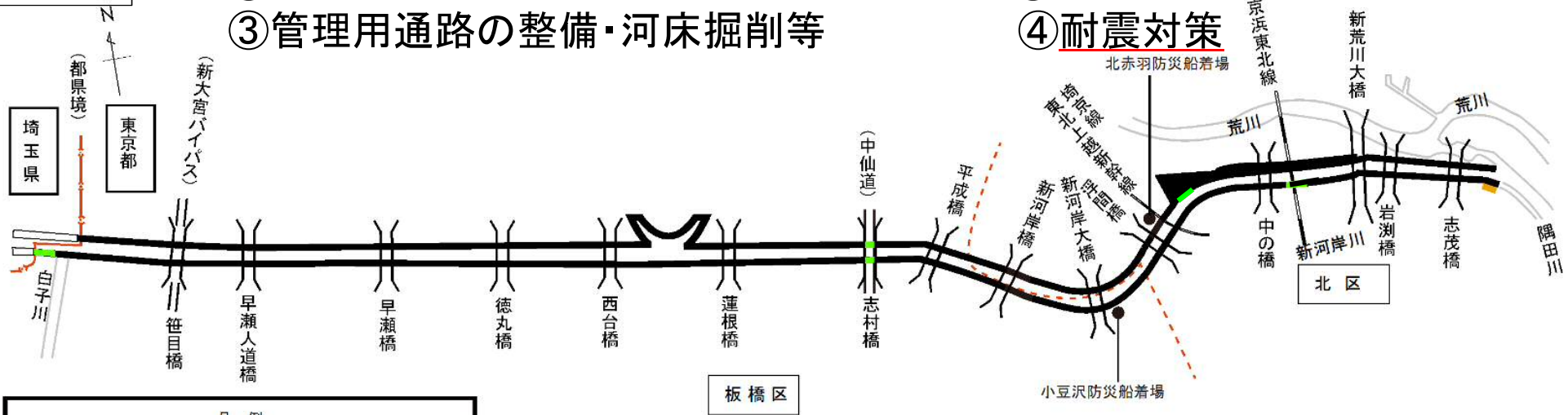
(地震水害対策)

・将来にわたって考えられる最大級の強さをもつ地震に対して、防潮堤の機能を保持し、津波等による浸水を防ぐために、耐震対策事業により防潮堤の耐震性を確保していく。 **変更**

### 整備内容

- ①未整備箇所における護岸等の整備
- ③管理用通路の整備・河床掘削等

- ②防潮堤の整備
- ④耐震対策



新河岸川整備箇所図

# 3. 河川整備の実施

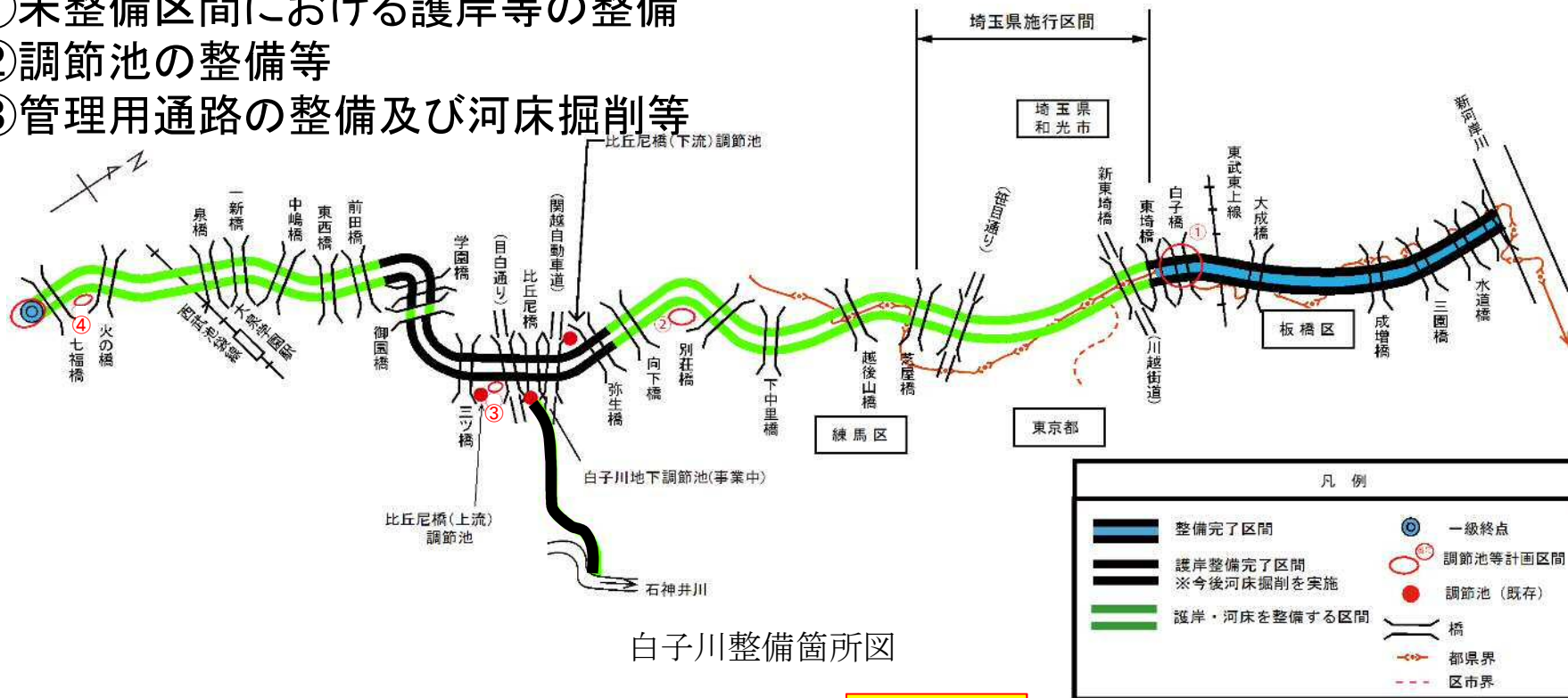
— 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減 —

## 白子川

白子川では1時間あたり75mm規模の降雨に対応するため、流域内で実施される河川への雨水流出対策(10mm規模の降雨に相当する流域対策)の効果を見込んだうえで、河川を流れる洪水に対処することとし次の整備を実施する。

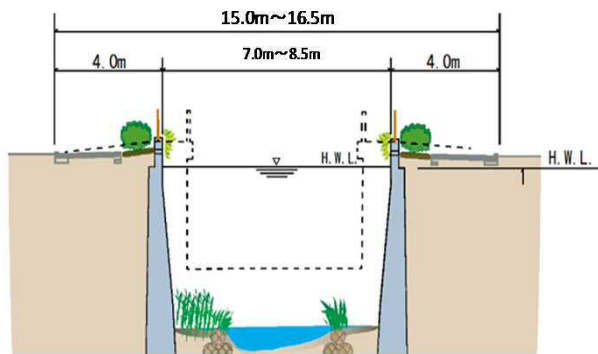
- ①未整備区間における護岸等の整備
- ②調節池の整備等
- ③管理用通路の整備及び河床掘削等

変更



白子川整備箇所図

今後整備を行う区間における河道標準断面図



変更

白子川流域における調節池の諸元

	位置	調節池容量(予定)	調節池名称
①	東埼玉橋付近	約 127,000m <sup>3</sup>	(計画中)
②	別荘橋～向下一橋	約 83,000m <sup>3</sup>	(計画中)
③	比丘尼橋付近	約 38,000m <sup>3</sup>	(計画中)
④	火の橋～七福橋	約 254,000m <sup>3</sup>	(計画中)

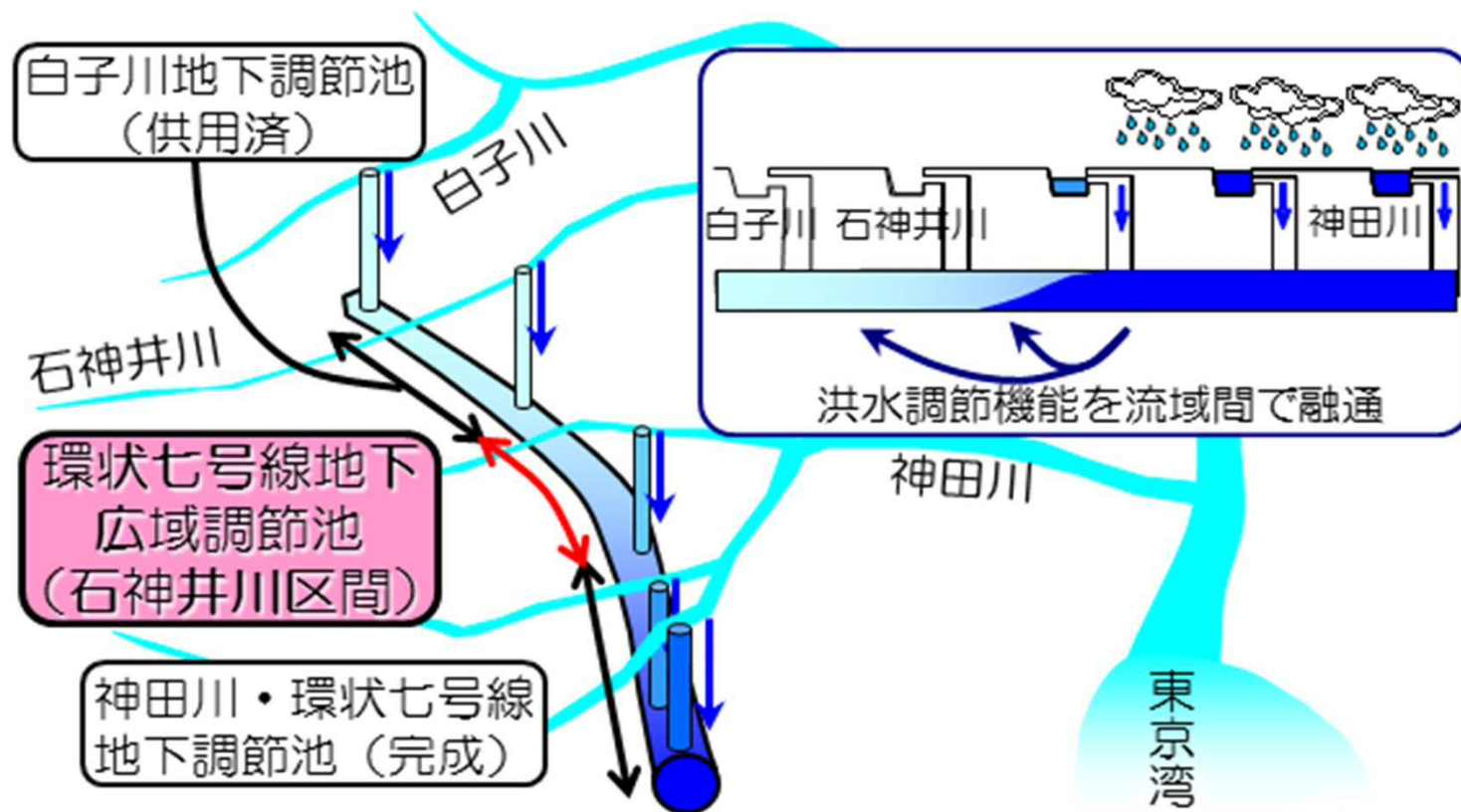
### 3. 河川整備計画の目標

—洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減—

白子川

変更

神田川・環状七号線地下調節池と白子川地下調節池をトンネルで連結してできる環状七号線地下広域調節池は、神田川、石神井川、白子川の3流域における洪水調節機能の相互融通を可能とし、近年増加している局地的かつ短時間の集中豪雨にも効果を発揮していく。

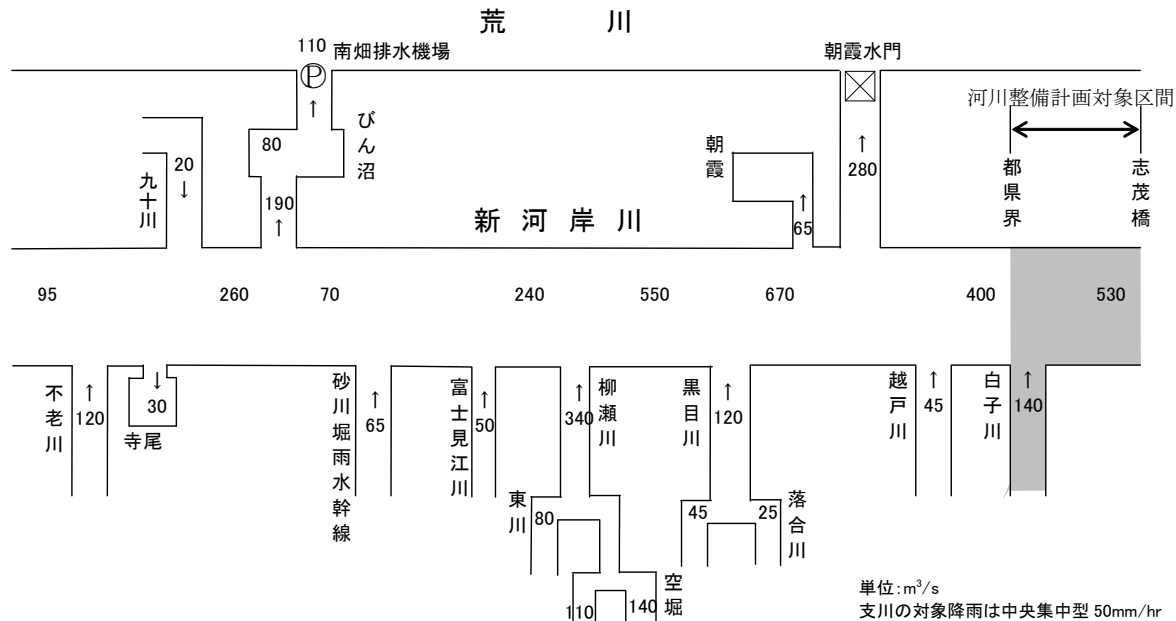


広域調節池のイメージ図

# 3. 河川整備計画の目標

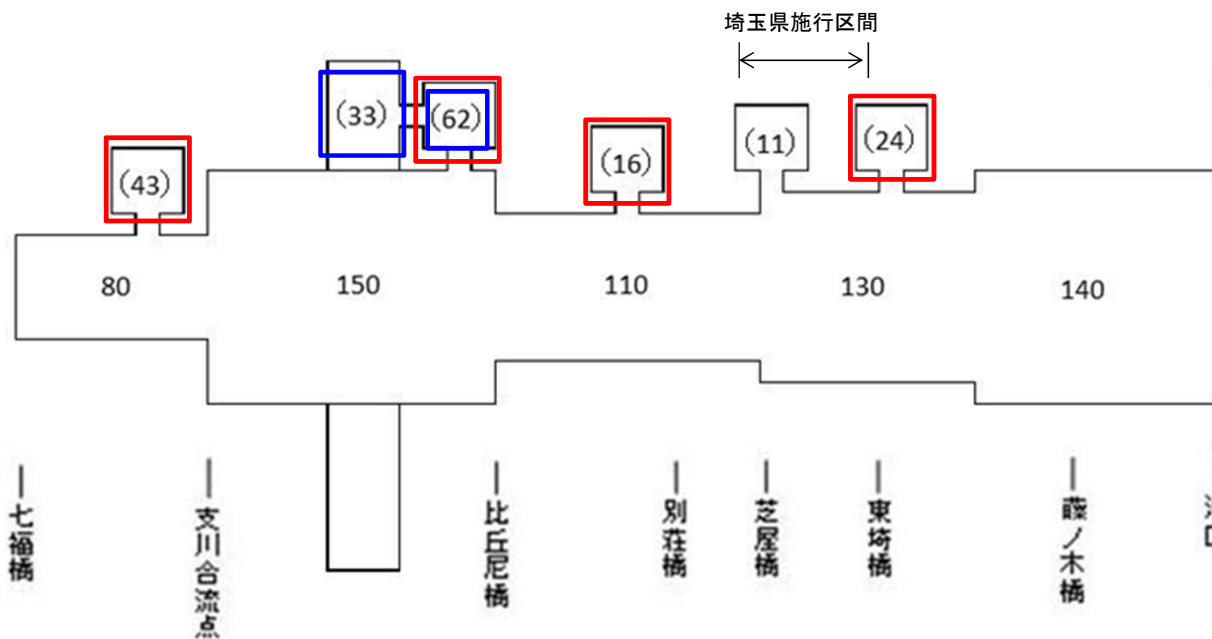
— 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減 —

## 流量配分図



凡 例  
 単位  $m^3/s$   
 500 : 計画高水流量  
 (45) : 調節池カット量

新河岸川計画流量配分図



白子川計画流量配分図

### 3. 河川整備計画の目標 —河川環境の整備と保全—

生物の多様な生息・生育空間の確保、適切な水質・水量の維持・確保、健全な水循環の形成、良好な河川景観・親水空間の保全・創出、地元自治体の公園などの計画との連携などを目的とし、現状で残されている自然の保全に努めるとともに、河川の整備にあたっては、治水上支障のない範囲で、管理用通路や護岸の緑化、拠点的な親水空間の整備を目指していく。

#### 新河岸川

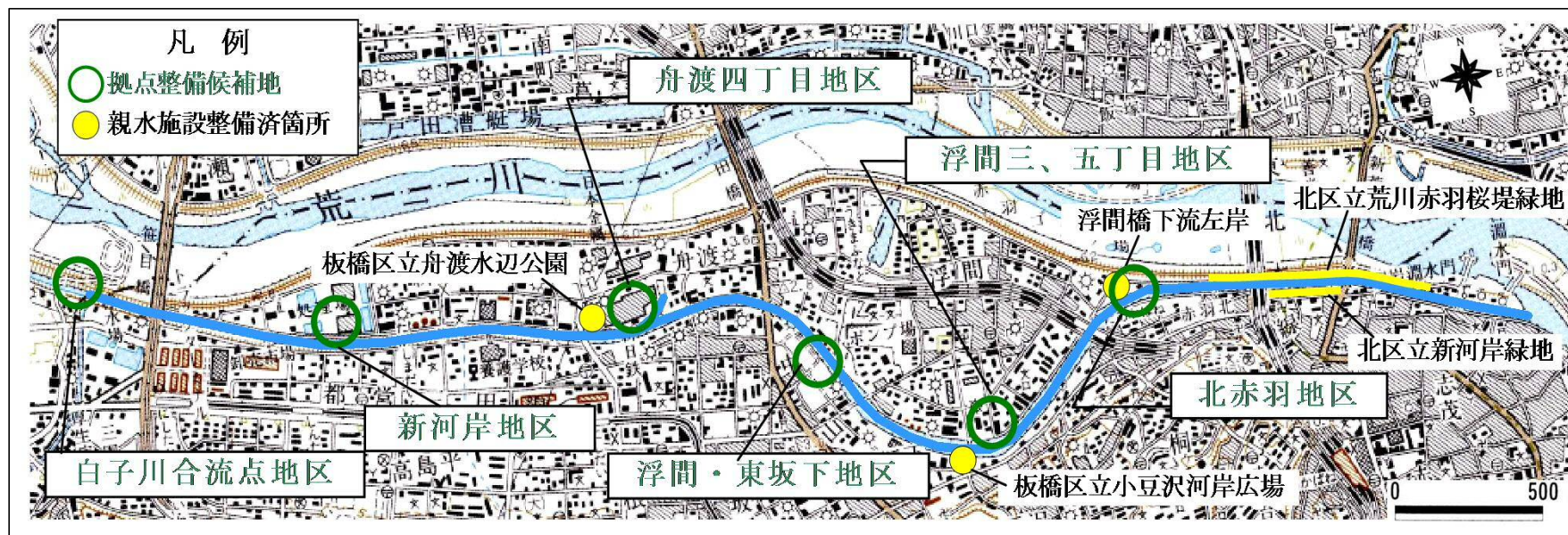
河川環境の整備と保全として、次の整備を目指していく。

- ①管理用通路、護岸の緑化等
- ②親水性を確保するための取り組み

→ まちづくりや地元自治体の公園等の計画と連携し、拠点的な整備を検討していく。



浮間橋下流左岸の防災船着場、緩傾斜護岸、親水テラス整備状況



新河岸川の自然環境保全及び親水整備の候補地

### 3. 河川整備計画の目標 —河川環境の整備と保全—

#### 白子川

河川環境の整備と保全として、次の整備を目指していく。

- ①管理用通路、護岸の緑化等
- ②調節池の多目的利用
- ③親水性を確保するための取り組み

→ まちづくりや地元自治体の公園等の計画と連携し、拠点的な整備を検討していく。



白子川の自然環境保全及び親水整備の候補地

## 1. 流域及び河川の概要

- ・新河岸川及び白子川の概要
- ・土地利用状況の変遷
- ・歴史と由来

## 2. 河川整備の現状と課題

時点修正

- ・洪水による災害発生状況
- ・河川の整備状況
- ・適正な利用及び流水の正常な機能の維持
- ・河川環境の整備と保全

## 3. 河川整備計画の目標及び整備の実施に関する事項

- ・洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減
- ・河川環境の整備と保全

変更

時点修正

## 4. パブリックコメントの結果



## 4. パブリックコメントの実施結果

### ●意見聴取の実施概要

実施期間：平成29年9月1日～29日（4週間）

実施方法：変更原案の公表、リーフレットの配布

実施場所：都庁河川部、都建設事務所（3箇所）、流域区市（5区市）、都HP  
※都・区市広報への掲載、HP・Twitterによる情報提供

### ●提出意見（総括）

河川整備計画全体に関する事	.....	2 件
洪水対策に関する事	.....	1 件
環境保全に関する事	.....	6 件
水質に関する事	.....	3 件
河川利用に関する事	.....	4 件
その他	.....	3 件

合計 19 件

## 4. パブリックコメントの結果

寄せられた主な意見と回答（抜粋）

### 主な意見

### 回答（案）

#### ◆河川整備全体に関すること

本年も九州北部で大規模な水害が発生するなど、近年、局地化・集中化・激甚化した大雨等による災害が相次いでいます。練馬区でも今年8月19日、大雨により床上浸水が発生し、また、30日には練馬区付近で約100mmの記録的短時間大雨情報が発表されました。いつどこで甚大な被害が発生しても不思議ではありません。整備計画にあるとおり、一日も早く、1時間あたり50mm規模の降雨に対応できる河道に加え、洪水を貯める調節池を整備して、安全性を高めていただきたい。さらに、白子川下流域の埼玉県施行区間も早急に調整を行い、整備を進めていただきたい。

白子川では、流域対策も含めて1時間あたり75mm規模の降雨に対応できる河川の整備を目標としており、今後の水害の軽減に向け、調節池の整備などを進めて参ります。

整備実施にあたり、皆様の理解が得られるように丁寧な説明を行ったうえで、可能な限り早期に事業着手していきたいと考えております。

埼玉県施行区間につきましては、整備着手にむけて引き続き、埼玉県と協議を行って参ります。

#### ◆環境保全に関すること

白子川源流は、湧水が湧き、絶滅危惧種など多種多様な生物が棲む豊かな河川環境を有しています。また、川の周辺には、畑や憩いの森など大泉本来の風景が残されています。新河岸川及び白子川河川整備計画(変更原案)では、大型調整池の建設などが予定されていますが、治水機能を確保しつつ環境と調和を図り、豊かな水辺環境の創出、白子川を中心とした大泉本来の自然環境の再生を図っていただきたいと思っております。

第4章第1節(2)河川環境の整備と保全に関する事項に記載のとおり、生物の多様な生息・生育空間の確保、適切な水質・水量の維持・確保、健全な水循環の形成などを目的とし、河川環境の向上に努めた川づくりを進めて参ります。

## 4. パブリックコメントの結果

主な意見	回答（案）
<b>◆河川利用について</b>	
<p>P40～P41親水性の確保について、白子川は区内でも貴重な水辺空間だと思いますが、水辺に親しめる場所が少ないと感じています。P41のイメージ図にあるような水辺空間が、これから多く整備され、子供たちが水辺に親しめる箇所が多くなることを望みます。</p>	<p>第4章第1節(2) 河川環境の整備 図4-15に、白子川の親水整備候補地を記載しております。白子川水辺空間整備イメージ図4-16では、水辺とふれあうための緩傾斜護岸や生物が生育できる環境整備を表現しております。地元自治体と連携し、検討を進めて参ります。</p>
<b>◆洪水対策について</b>	
<p>白子川河川整備計画では、P33にある通り1時間あたり75mm規模の降雨に対応する整備を行っていくとのことですが一方でP14では、集中豪雨により1時間75mmを超える雨も発生している。集中豪雨を上回る規模の降雨にはどのように対処するのか。</p>	<p>75mm計画は、白子川流域全体に75mmの雨が降る想定をしております。近年の集中豪雨は、局所的でかつ短時間のものが多いことから、75mmを超えた場合に、必ず氾濫するというものではありません。計画規模を超える降雨に対しては、避難を円滑に行うための浸水予想区域図やハザードマップの作成、水位情報の提供など、ソフト対策を合わせて安全性を高めていきます。</p>
<b>◆水質に関すること</b>	
<p>西東京市白子川上流第一排水区からの下水排水によって、白子川源流への下水汚濁の負荷が増大し、さらに白子川の環境劣化が進行することが危惧される。</p>	<p>第4章第2節2項に記載のとおり、関係機関と連携し、生活排水に関する啓発活動等を進めることで、水量・水質の保全に努めて参ります。</p>

